

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909		
法人名	中央ケアサービス株式会社		
事業所名	なでしこ大紀		
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4		
自己評価作成日	平成26年2月18日	評価結果市町提出日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472800909-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域になくてはならない施設となるにはどうすべきかを日々模索中です。
「用事もないけど気軽に立ち寄りたくなる施設」を目標に、今後も地域のイベントや依頼には全て応えていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を山々に囲まれ目の前には川が流れる自然豊かな環境に位置している。敷地入口には、大きな桜の木があり春が待ち遠しい。『笑顔とやさしい声の響きこそ最大の良薬・利用者の苦しみを除き楽しみを与えるこそケアの原点・心と目は常に利用者に・利用者のために職員の団結・常に現状を乗り越える知恵の発揮を』の5つを理念とし、地域に必要とされる地域への貢献をという厚い思いの代表者のもと、管理者はじめ職員による温かく穏やかな見守りがあり、利用者は家庭的な雰囲気ですることができる。また、移動店舗『まおちゃんのおつかい便』が週1回施設内に訪れるように要望し、利用者が自由に買い物できる工夫をするなど地域をうまく巻き込み支援につなげており、誰もが気軽に立ち寄ることができる事業所になるよう実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に提示し、毎日唱和している。毎月の会議、隔月の運営会議でも、事項書下部に毎回印刷している。慣れが見られたときに社長が出した実践への要望も文章化、掲出している。	「自分の家で過ごすように」と、5つの項目を理念に掲げ見やすい場所に掲示して、引き継ぎ時に唱和し確認合っている。日々の対応が、利用者の立場にたった支援になっているかを振り返り、日々のケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調良好者の地域主催イベントへの参加、ボランティアの慰問、移動販売や地域での買い物などを継続して行っている。利用者が主役となれる、日常的な交流の方法を模索中である。	地域主催の文化祭に参加したり、ボランティアや中学生の体験学習の受け入れを行っている。地域の移動販売が事業所内まで入る等、日常的な交流を図る取組を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月の運営会議出席者への周知、地元中学校の職場体験の積極的受入れや地域の大人に仕事の話を聞く授業への協力、認知症の家族の集いを開催するなど、積極的な地域貢献への努力ができています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で必ず開催し、意見交換を行うことができています。これまで同様、具体的要望は少なく、サービスに活かした意見はないが、これも地域からの信頼の証左であると考えています。	2か月に1度開催、民生委員・ボランティア等の会議参加があり、地域応援団が増えている。また、手作りおやつ持参の会議はあたたかくほのぼのとした会議となり、情報交換・意見交換も自然と行われ、サービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、現状報告し、意見を伺っている。依頼を受けて認知症の家族の集いを開催するといった協力関係が築けている。	近隣中学校での認知症学習の講師や広域連合の認定調査員を受ける等、地域事業所の役割として、町との連携を取り交流や意見交換の機会としている。近隣の支所には介護保険の更新手続き等で書類を届けており、情報交換の場になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は入居してから日が浅く、危険度の高い入居者が多く、その一部の方については、ご家族の希望と、個々の事情に即した支援を実施している。	管理者の下、職員全員が身体拘束・言葉の拘束の内容と弊害を研修会で学習してケアに取り組んでいる。利用者の状態に応じて拘束が必要になった場合は家族に説明し、適切なケアになるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	数多くの講習等に参加し、周知徹底することで、虐待防止関連法、ルールをそれぞれが理解して、可能な限りの努力を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会等に、役職者や休日の職員らが、積極的に参加できており、その後の全体会議で時間を取って報告するなど、的確なアドバイスができるように備えることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取っており、事前の丁寧な説明ができている。説明不足によるトラブルやクレームも無く、きちんと納得していただけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議での相談、ケアプラン作成時の手紙や、月ごとの近況報告と要望の確認、家族代表の運営会議参加と苦情窓口係のお願いなど、さまざまな機会を作っている。	毎月のお便りでの要望確認やサービス担当者会議・ケアプラン作成時、面会時や家族代表の運営推進会議で、意見交換等している。多岐にわたる機会の設定をし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、その後の職員のみでの話し合いや、連絡ノート、要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会に加え、退所時に相談を受け付けるなど、さまざまな形で機会を設けている。	家族的な雰囲気と、普段から職員間の仲間づくりが盛んであるため意見が言いやすい。全体会議を月1回、昼間の時間帯に行ったり、自己評価も全職員がかかわり職員の意見を聞く機会を多く設定しており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からは、主に出勤日、就業時間帯の要望が多いが、最大限に対応している。また、遠慮なく要望を出せる雰囲気を保っている。理念に基づき、知恵を出し合って職場を改善していくとの意識の共有ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と積極的な参加を呼び掛けており、参加できる職員は、誘い合わせて参加している。全体会議では、研修内容の報告や、看護師によるミニ勉強会の時間を必ず設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務長が中心となり、グループホーム協議会や県の医療関係全体の交流の会に参加している。会合やセミナー開催時は、全体会議で必ず周知し、休みの職員にも声を掛けるなど配慮している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族による見学を重視するとともに、全ての説明を終えた上で、納得いくまで話合っていただけよう要請している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらかじめ十分な時間を割いていただけるよう要請し、不安要素を全て取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、施設CM、担当者らを含めた、本人を中心としたグループでの、十分な時間をかけた話し合いができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰にならないように注意しつつ、それぞれに役割を持てるよう配慮している。 「ありがとう」の声かけと笑顔を重視するよう周知徹底している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお知らせや、担当者からの定期的な手紙の送付、認知症の家族の集いなどのイベントへのお誘い、面会時の近況報告と写真撮影、撮った写真を印刷しお渡しするなど、出来る限りの機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元へのお買い物、行きつけの美容院の利用、墓参り、お見舞い、面会人の来訪時の声かけと写真撮影、撮った写真を印刷しお渡しする、地域イベントへの参加など、出来る限りの支援を継続して行っている。	美容院・墓参り・地域のイベントへの参加等、馴染みの場所への外出による関係継続支援を行っている。また、デイサービス利用者との出会いから新たな交流が生まれ、馴染みの唄を歌ったり・面会者との写真撮影からの出会いづくり等、事業所が馴染みの場所になるような支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際やレク、日中それぞれの場面で、利用者の関係性を考慮に入れた、席の配置や組み合わせの配慮など、ちょうど良い距離感が保てるような支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などの場合には、寄せ書きと千羽鶴を贈っている。また、可能な限りお見舞いして様子を伺い、それを会議で報告し合うなど、フォローや支援できる態勢を取ることを意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさない、お風呂の入浴日や時間帯の変更対応、受往診時に本人からも話をしてもらうなど、本人の意向を汲み取り、その要望に沿える支援を実施できている。	職員は、午後のゆったりした時間に個別に話を聞き、把握に努めている。またケア計画担当者は、利用者の様子を伺い、思いや意向の把握に努めている。利用者個々の好みの歌・得意の歌の一覧を作成し、カラオケの時間に活用している。	利用者の思いや意向を全ての職員が共有のうえ、ケアの場で活かされるように、センター方式の活用等、工夫することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	しっかりと記録をもとに、日常の変化に対応しながら、本人らしい最良のケアを模索するという意識を共有できている。施設での様子との差異についても、即時の報告と話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付き帳の詳細な記入を基本として、朝夕の申し送りでの注意喚起、さらにその内容を業務日誌の特記事項欄に記録し職員に周知徹底している。また、特に注意すべき事柄を、月初めの全体会議で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づき帳の記録と受往診での医師の診察結果を基に、状況の変化に応じた会議や話し合いの開催、その内容のプランへの反映など、きちんとした手順を踏んだ上での、いま現在必要なケアプランが作成できている。	モニタリングは担当職員が3ヶ月毎に行い、それを担当職員・看護師・ケア計画担当者でその都度確認し、必要なら計画の見直しに繋げている。家族には面会時等に意見を聞くと共に、更新時には面会に合わせた担当者会議を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき帳の記録と受往診での医師の診察結果の情報共有に加え、その周知徹底を目的とした職員連絡簿の改善を実施。突然の変化変更にも、詳細な記録と伝達による即時対応、情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎の際の時間や場所の指定、金融機関への同行の希望など、即時実行可能な細やかな要望には全て対応している。デジカメでの家族写真プレゼントや各部屋にポストを設置し年賀状を配達するなどの独自サービスも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	得意分野の関わる施設の仕事を任せする、詩吟の先生にリクエストする、習字の見本をお願いする、草刈りの手伝いの申し出や、畑仕事での肥料の追加などの要望に即時で対応する、興味のありそうな近隣のイベントや展示会に参加する、などの支援を実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期での往診、突発時の連絡など、かかりつけ医との連携の体制がしっかりとできている。受往診の際には、本人からも気になる事を伝えていただいている。家族との連絡、報告、突発時の協力もスムーズである。	かかりつけ医・協力医との連携をとり、定期的・突発的な受診の支援を行っている。緊急時も迅速な対応があり、家族にも経過を聞く機会が作られる等、信頼されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	休日でも連携の取れる態勢を取れている。看護師は気付き、職員連絡簿の把握、職員の報告を確認の上で職務についており、職員の方は会議での看護師からの話でアドバイスをもらうなど、緊密な連携ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有、管理者、役職者による休日を利用したお見舞い、状況把握に加え、医療機関報告用の介護状態の分かる書類を、より分かりやすく改良し、作成中である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在もがん患者の再入居を受け入れ、ご家族、かかりつけ医、職員の連携を密に取りながら、本人とご家族の希望に沿ったケアを実施している。	重度化や終末期については、本人・家族の希望を聞き取りその都度、家族・主治医・職員と共に話し合いつつ出来ることとできないことを確認しながら支援している。現在も会議時には必要性や対応について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な避難訓練や、マニュアルの掲示を実施している。過去に重大な病気を発見できた成果もある。また、車イスのまま避難できる車両を導入。全員参加で使用法の講習を実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制、柔軟対応それぞれについて、過去のレベルが維持できている。寝たきりの方が多いユニットであり、特に夜間の災害時にどうするかを全員で話し合い、マニュアルに沿った対応をスムーズにできるよう準備している。	地域の有志による防災委員会に所属し、地域を守る為の活動を継続している。何十年ぶりの大雪では日ごろの備蓄が役立った経験から、孤立に備えて備蓄等を検討している。夜間想定訓練も検討中である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前回報告以降も状態を維持できている。また、戸を閉める音の苦情へのクッションによる対策や、一部トイレの他人使用不可の希望にも対応を行った。	どんな些細なことであっても場所を選んで会話をするなど、利用者への人格を尊重し、プライバシーの確保と誇りを守るために、社長はじめ全職員は常に気を配り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が、家庭的な雰囲気づくりを意識しており、促しの声かけが実践できている。受往診時の発言など、あらゆる機会、どうなのか、どうしたいのかを、時間をかけることで訴えていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康上、なるべくベッドから出ていただいて過ごすよう促している。その上で、本人のペースに合わせた起床就寝、入浴時間や順番の調整や、余暇活動への意向を伺う声かけなど、その人らしい暮らしのための支援ができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、毛染め、爪切り、髭剃りなどの日常の身だしなみのチェックに加え、行きつけの美容院の利用の要望には全て応えている。衣服は、色の組み合わせをお勧めして共に盛り上がり、称賛の声かけを心がけるといった支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のスキルを活かすため、洗い物等をお任せしていたが、衛生上の問題と他入居者からの苦情あり、以降はテーブル拭き、お盆拭きなどのみをお願いしている。席順の配慮や形状、量の要望などには全て対応できている。	管理栄養士にも相談している献立で、3人の調理担当者が交代で、それぞれの味を工夫しながら食事が作られ、楽しく食事が出来るように支援している。お盆拭き・食器すすぎ・下膳等、利用者の持てる力が活かされており、楽しそうである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指導のもと、制限を行っている入居者もあるが、食事量については基本的に本人の食欲に任せている。記録を丁寧にとることで、病状、体調、習慣、現状に沿った支援を行うことができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りの自立を促しつつ、出来ない部分を支援する形を取っている。自立している入居者に対しても、忘れず声かけを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の詳細な記録を基にして、早め早めの、自信を持てただけのような声かけを心がけている。状況に応じたポータブルの設置、撤去を行うなど、個々の状況に応じた支援ができています。	詳細な記録の排泄表を活用しながら、日頃の動作を観察し、可能な限りの自立に向けた支援を行っている。夜間の対策にポータブルトイレを設置するなど、個々の状況に応じた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、野菜を多くとれるような献立の工夫を継続して行っている。記録を基に、病状に応じて対応している。運動が難しい方が多いため、服薬での対応や、ごく簡単な運動が主な対応となっているが、下半身のマッサージなども試行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人との事前相談の上であり、かつ延期や拒否、シャワーのみの要望、順番への要望などに柔軟に対応できている。	浴室は一般用と機械浴室があり、利用者一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気の入替え、記録を基に個々の好みに合った状況の把握、見守り、眠れない方への軽い食べ物の提供といった、基本的かつ柔軟な継続した支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の説明に目を通し、効能表の作成、変化の観察、医師への相談、変更への対応の周知徹底、粉末への変更やゼリーの使用といった、細やかで確実な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、施設の仕事の手伝いや、ドライブ、買い物、散歩、ひなたぼっこ、手芸や絵画、書を額装して飾る、足湯、器具運動、カラオケなど、様々選択できる日常支援に加え、イベントを重視し、誕生日や夏祭りなどの企画を充実させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴、散歩、外泊、外食、買い物、墓参り、ドライブ、イベント参加など、変わらず支援、努力ができています。現在は入居されてから日が浅く、危険度の高い入居者が多く、その一部の方については、個々の事情に即した支援を実施している。	暖かい日はホーム周辺の散歩、春になればホーム前の桜の花見、隣町の港市の見学や外食に出かけるなどの支援を実施している。また家族の協力のもと、外泊やお墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの無いよう個別に支援ができています。所持されていない方がほとんどで、ごく少額を所持されている方が2名、それなりが1名。それぞれ使うよりは、安心感が所持している主な理由である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を気軽に職員に頼んでいただける環境を維持できている。電話も、気軽に借りることができたり、自室でゆっくりお話しできるよう子機をお渡ししているなど、変わらず配慮、支援ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や空気の入替え、季節感のある花や観葉植物の飾りつけなどは変わらず実施されている。我が家のイメージを大事にしている。音、光、温度等は本人の希望を必ず伺っている。	明るく広い空間では、利用者が習字を書いたり刺し子をしており、職員の見守り・支援はとてもゆったりとして穏やかである。訪問時の3月には玄関・居間にお雛様、利用者の作品のちぎり絵・習字等が飾られ、面会者との話題づくりや創作した利用者の誇りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人がひしめき合い、にぎやかなのがソファ、ゆったり新聞を読んだりできるのがテーブル、冬はこたつのエリアを設ける、といった場所ごとの特徴を入居者が理解しており、思い思いの過ごし方ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族とのじっくりとした相談の上で、馴染みの物を持ち込み、家族写真を飾るといったこれまで通りの支援、工夫が継続してできている。	テレビ・筆筒・仏壇や小物等、家族と共に利用者の好む場所に設置したり、カーテンを換え全体を模様替えしたりと、少しでも心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で一定の生活水準を保てるよう、ベッドやマット、布団の選択、利用しやすさへの配慮や、ポータブルトイレの設置と撤去、部屋の扉の名札の変更など、みんなで知恵を出し合いながら、可能な限りの配慮を行っている。		